

# 山行報告

## ◆◆元旦ご来光登山参加者について報告

砂川(延)

2017. 1. 1

今年の元旦は快晴に恵まれ素晴らしいご来光を拝顔することができました。今年は良い年を迎えることができそうです。



ご来光を見るために高御位山には去年に比べても、更に多くの参加者で、いつもの場所にも入る余地がないほどでした。そのため、一か所に集合して、ご来光を見ることができず、バラバラになり、集合写真も撮れない状況でした。

やむなく、ご来光を見た後はそれぞれに現地解散としました。

こういう状況を見ると、集合時間を早める必要があるのではと感じました。

参加者は下記の通りで会員の参加は17名、会員のご家族は6名、一般から1名で総勢23名の参加でした。

特に高島さん宅からご本人とご主人、娘さん御二人と、長女の許嫁の方お一人とご家族総出でのご参加でした。

### 【参加者】

尾内 岡本 乙坂 木下 黒本 佐々木  
澤田(律) 島本 砂川(延)(他に家族参加、2名) 須増  
高島(他に家族参加、4名) 福田 藤本  
増田 松浦 森本 山下 黒田(一般参加)



## ■納山会 虚空蔵山 新たんば荘(篠山)

- 日 程：12月10日(土)～11日(日)
- 参加者：22名



## ■油井コース

- 参加者：L山本(正一) SL大谷 島谷 荘所 高島 田中(重) 橋本(健)  
福田 舂賀

- 行動記録：山電高砂 8:25 発－JR宝殿駅(8:35 着)8:40 発－JR加古川(8:50 着)9:05 発－滝野庁舎 9:50 発－油井バス停(10:35 着)10:50 発～山上山 11:30～大谷山 11:40～展望台(12:00 着・昼)12:25 発～八王子山 12:40～虚空蔵山(13:35 着)13:50 発～藍本分岐 14:00～陶の郷分岐 14:05～陶の郷(14:35 着)14:50 発－新たんば荘(泊・15:10 着)

### ◆◆入会して初の登山

福田

今回は私が高御位山遊会に入会して初めての登山です。事前にたくさんの資料をメールで送っていただきました。名簿・地図・装備・各担当等、細かなことまで記載されていたのでとても助かりました。

私もスマホに今回はジオグラフィカで地図をダウンロードしていきましたが、YAMA Pには3コースともルートまでアップされていました。(こちらを使うと私はいつまでも読図技術が身につかないかな?)

油井バス停から数メートル南に離れた民家の脇に登山口があります。ここから急登、尾根づたいに山上山まで高度をかせぐのですが、途中何かの址なのか石畳の道があり、そちらへ進んでしまう。リーダーが数メートル行ったところでルートを外れているのに気づきコンパスで確認。改めて尾根道に戻りましたが、ただついて歩いていて自分に反省。

展望岩で霧のような小雨に降られたりしながら昼食。立杭の集落が見えます。いくつかのアップダウンを繰り返して、虚空蔵山山頂に到着。数分の差で三本峠から登ってこられたグループと合流。お互いに記念撮影をしました。



陶の郷へ下山ルート途中すぐに丹波岩と呼ばれる展望の良い岩場があり、はるか六甲の山並みまで眺めることができました。40分ほどでバスの待つ合流ポイントまで下山しました。

低山ながら眺望がよく幾つものピークが踏めるいいコースでした。



## ■ 藍本コース

- 参加者：L 和田 SL 待場 貝塚(文) 黒本 砂川(美) 須増 田羅間(勤) 藤田

- 行動記録：藍本郵便局前(10:45 着)11:00 発～登山口(11:15 着)11:20 発～虚空蔵堂(11:50 着)12:15 発～尾根筋 12:25～虚空蔵山(12:55 着)13:05 発～藍本分岐 13:20～陶の郷分岐 13:25～陶の郷(14:00 着)

## ◆◆初めての「虚空蔵山」納山会に参加して

## 黒本

初めての泊まり山行・納山会・「虚空蔵山」と初めてづくしでワクワクしながら、バスに乗り込み丹波路へ。

紅葉の山々を期待して、藍本コースの出発地に降りたのですが、落葉した冬枯れの山々に少しガッカリ。穏やかに晴れた加古川とは違い、雲が広がり冷たい風に当たりながらストレッチをして出発。

休眠中の田んぼを見ながら進み、高速道路の下をくぐり、側道を少し行くと山側に登山口の標識と虚空蔵堂の案内板がありました。山側の登山道へ入ると、今までアスファルトの道だったのが、ガレ道(大小の岩クズの道)の上を落ち葉が覆って歩きにくくなっていて気をつけながら進みました。沢沿いを歩いていると「石船」の標識があり、「虚空蔵堂に参拝する人は、手を洗い清めること」とありました。少し狭くなった急登の先に左右に石燈籠が1対あり、その先には、まっすぐに伸びた大木が並ぶ参道があり、石積みの階段へと続いていました。それを登った所に立派な「虚空蔵堂」がありました。昼食と休憩を摂り、小雨の中、カッパを着て山頂に向けて出発。しばらく細い道を歩き、尾根を少し進むと大きな見晴らしのいい岩場(薄い板状の岩を貼り合わせた様な岩で、調べると「丹波岩」とありました)に到着。そのすぐ先に虚空蔵山山頂(木製標識標示596m、地形図表示592m)があり、

雨は止んで曇っていましたが見晴らしは良く、南方向遠くに播磨灘・淡路島が望め、少し右手に雄岡山・雌岡山らしき姿も見つける事が出来ました。北側には、冬枯れの山々が続いています。

少し休憩して、「陶の郷」に向けて下山開始。



足場が階段で急な下りでした。途中の案内板は、陶器で出来ているようで、さすが丹波だなと思いました。気付けば周りは、とても手入れが行き届いた檜の林で、その先は、陶の郷の裏へと続いていました。

下山後又、雲行きがあやしくなり、空を見上げると下りてきた裏山に綺麗な虹がかかり、しばらく眺めていると大粒の雨が降り出しました。

慌てて喫茶店に駆け込んでストーブにあたりながら、温かいコーヒーをいただき、ホッとしたと

ころにバスからの電話があり、バスに駆け込んで本日のお宿へ。

森の中の山小屋風の「いこいの宿 新たんば荘」に16時前に到着。お風呂で疲れを癒した後は、楽しみにしていた篠山名物「ぼたん鍋」の夕食。鍋奉行のご指導のもと、癖なく、やわらかく、おいしい猪肉を完食。カラオケも入り、3時間の宴会も大いに盛り上がり、2次会も名残り惜しくも22時30分でお開きとなりました。

翌朝は、山間から登る朝日を部屋の窓から眺める事ができました。好天に恵まれて、会長の案内で篠山市内観光へ。年末のせいもん払いで商店街も歩行者天国となり、黒豆・山芋・焼き栗と秋の味覚を試食したり、お買い物したり、酒蔵で新酒の試飲もさせていだいたりとぶらぶら街歩きを楽しんだ後は、「大手食堂」で篠山名物「牛トロ丼」をペロリと完食し、城跡の見学へ。時間がなく足早に散策後帰路へ。

初めての泊まり山行で、とても楽しく充実した2日間を過ごせました。皆様、お世話になりました。ありがとうございました。来年もよろしくお願ひします。



## ■三本峠コース

●参加者：L森本 SL瀧原 中村 砂川(延) 野村

- 行動記録：三本峠今田加圧所 11:05 発～高圧線分岐(11:40 着)～鉄塔No. 48 (昼食・12:00 着)12:25 発～陶の里分岐(13:15 着)～藍本分岐(13:25 着)～虚空蔵山山頂(13:40 着)14:00 発～藍本分岐(14:10 着)～陶の里分岐(14:15 着)～陶の里(14:40 着)

## ◆◆2回目の虚空蔵山

中村

昨年も虚空蔵山に登ったけれど、山頂からの眺めが見事だったので、今年も参加することにした。

前回、油井から登り、山頂近くで三本峠からのメンバーとすれ違ったが、靴・膝は泥に

まみれていて、苦難の登山道を想像した。今回、その想像した登山道が気に入り、三本峠から登ることにした。

登山口に近づくと、立杭焼の窯元が点在し、登り窯もちらほら…立杭焼は、信楽焼・備前焼等に並び、日本六古窯になっている。平安時代にさかのぼり、現在に至っているらしい。登山道には、焼物の材料になると思われる粘土質の土がみられた。今年の、苦難は、この粘土質の登山道が原因？このところは天候が安定していたせいか、水分を含んでおらず、滑ることはなく幸いした。

鉄塔を目印に登っていく。この登山道は、関西電力が鉄塔の管理をするため、整備されているとか…比良の山々でも高電圧の鉄塔は目立っていたが、鉄塔を居住地から遠ざけることで、電磁波を避けることができる。そんな意味でも山は大きな資源だと感じた。(友人は、電磁波による頭痛に悩まされている)



さっきまで晴れていたのに、小雨？ともすればパチパチとあられも落ちてくる目まぐるしい天候に見舞われながらも、やっとのことで頂上に到達。キラキラ輝く播磨灘をバックに、いなみの台地が広がる。六甲から、遥かかなた大阪京都方面へ連なる峰々。我々の日常の生活圏が一望できた。まるで、映画「E T」を連想させる眺めだった。

とにもかくにも、今夜は宴会。乾杯に遅れることのないよう、慎重に下山。メンバーの皆さんお世話になり、ありがとうございました。



## ■高御位山縦走 トレーニング&各自脚力・歩荷力確認縦走

- 山 行 日：12月16日(金)
- 参 加 者：L山本(正) SL三木(悦) 内海 大谷 高島 田中(重) 藤本 村上 森本
- 行 動 記 録：JR曾根駅 8:51 発～豆崎登山口 8:57～地徳山(9:46 着)9:50 発～百間岩 10:12～高御位山山頂(11:37 着・昼食)12:05 発～北山分岐 12:59～辻登山口(13:47 着)13:55 発～JR宝殿駅(14:25 着)

### ◆◆逆打ちの高御位山縦走

田中(重)

晴天ではあるが肌をさす寒い中、慣れ親しんだ高御位山を今回はJR曾根駅集合で豆崎～高御位山～辻登山口～JR宝殿駅までの初めての逆打ち縦走に新たな期待感で挑みました。

山本Lを含めて9名で出発。豆崎登山口から間もなく、いきなりの岩場で昨夜の雨の影響もあり滑りやすく三点確保の登りでしたが、私とTさん以外は皆ベテランで難なくクリア。先程までの肌寒さは一気に解消で汗ばむ状態・・・経塚山古墳を過ぎ衣服調整の休憩だ。

温暖化の影響なのか季節外れの山ツツジを愛でながら地徳山から百間岩にさしかかるが、この岩場が何時もより長く感じたのは私だけではなかったようだ。



それでも、鷹ノ巣山、馬ノ背分岐を過ぎ高御位山頂には11時40分頃に着き何とか前半を終え昼食&休憩タイムに・・・そんな折、野村さんが写真の為だけに来て下さり9人全員での記念撮影ができ感謝！感謝！の有難い思いです。

お腹も満たされ体力復活！頂上から中塚山鉄塔までの下りは岩場やアップダウンの繰り返し、そして辻登山口分岐から米相場中継所址(明治時代、明石と姫路の中間にあ

った米相場の中継所)、太閤岩(秀吉が志方城を攻めた時ここに本陣を置き、この岩に腰をおろして軍兵の采配をとったと言われている)等々を経て、歴史を偲びながらの印象深い山歩きを楽しみ辻登山口に無事下山。

季節と天候にも恵まれた事と山本L、三木SL、皆さまのお蔭で爽快な縦走を体験させて頂きました。ありがとうございました。



## ■小谷山(滋賀県) ゆっくりリズム山行 歴史と湖北展望の山

- 山行日：12月18日(日)
- 参加者：La 垣内 SLa 渡邊(俊) 清水 平石 藤原 森下 矢根  
Lb 澤田(律) SLb 荘所 貝塚(陽) 狩集 澤田(卓) 田中(由)  
開 舛賀 山本(清)

- 行動記録：小谷城址登山口(10:45 着)10:55 発～小谷城本丸址(12:15 着)12:20 発～京極丸址(12:30 着)～山王丸(12:40 着)13:05 発～六方址(13:15 着)～小谷山山頂(13:45 着)13:55 発～福寿丸址(14:20 着)14:25 発～山崎丸址(14:40 着)14:45 発～小谷山下山口(15:00 着)

### ◆◆近江の山城、小谷山

### 矢根

JR加古川駅7時32分発の新快速で河毛駅10時19分着。

河毛駅前の浅井長政、お市の像を見ながらタクシー3台とコミュニティバスに分かれて乗り登山口に集合し登りはじめました。

始めは結構急な坂を登り、出丸址、金吾丸、番所址、御茶屋址などを通り、馬洗池は今も水を湛えており、黒金門址の手前に首据石があり今井秀信の首をすえたとある。石の上部は平らであった。

途中、浅井家の立派な供養塔もあり、本丸跡はまさに兵どもが夢の跡でした。



当時の石垣が残っている大石垣、こんなに大きな石を昔の人は運んだと思うとえらかったとその昔に思いをはせました。

少し下ったところの六坊址、ここから先は長い階段を登り頂上に到着です。広いけれど眺望のない山頂で少し休憩し下りはじめました、左手に雪をかぶった伊吹山のすがたは疲れを癒してくれました。福寿丸址、山崎丸址を通り下山しました。

今回の山行は、お天気にも恵まれ、日本5大山城の1つである小谷城址を満喫できて良かったです。

垣内さん、参加されたみなさまありがとうございました。



## ■クリスマス山行(山寺尾根から摩耶山)

- 山 行 日 : 12月23日(金・祝)
- 参 加 者 : L 砂川(延) SL 待場 貝塚(文) 木下 島谷 高島 瀧原 田中(重)  
田中(美) 田中(良) 田原 田羅間(易) 田羅間(勤) 苦瓜 福原  
本田 前川(克) 前川(典) 舛賀 村上 矢根 山本(正樹) 和田

- 行動記録 : 阪急六甲駅 9:15 発～護国神社(9:30 着)9:45 発～長峰橋(10:00 着)10:05 発～  
摩耶山(11:35 着)12:05 発～ハーブ園分岐(13:25 着)～ハーブ園(13:35 着)14:00 発～  
新神戸駅(15:00 着)ー三宮 15:20

## ◆◆クリスマス山行に参加して

## 高島

前日の荒れたお天気が通過して、気持ちの良い朝の出発となりました。

阪急六甲駅から護国神社まで歩いてだけで これから汗をかく予感がしました。ここでストレッチをして9:45にさあ出発^-^

急な坂の住宅街には高級車が駐車しているのを横目に、ここに住むのは大変だと思いました。

長峰台に向かって行くと鉄塔の下で「休憩です」とリーダーが言われた時、Nさんがゴミをひらう小道具を手にとられました。そして、「例会の時、ゴミが拾えなかったので、ここでさせてもらうわー」と、言われたのです。そこまで気がつかれることに感動を覚えました。

そこの休憩から一気に掬星台まで登りました。私はどんなゴミが落ちているのかよく見ながら黙々と登りました。掬星台まであと0.3キロからが急な登りでしたが、上を見上げると建物が見えて、「もう少しやでー」と、言われて汗をかきながら頑張りました。



すると、あと1歩で掬星台という見晴らしのいい場所に、数え切れないくらいのタバコの吸殻が落ちていました。なんて残念な光景でしょう。それをNさんはひらって下さいました。

神戸、大阪の街並みを見ながら、寒いのでサッサと食事を済ませ、写真係りの方が三脚を用意して下さい

ていて、記念写真、ハイ・ポーズ ^ー^

それから摩耶山頂三等三角点698.6mにたちより天狗道・稲妻坂を駆け下り、布引ハーブ園に到着しました。そのとたん、通り雨がザーザー降り始め、ハーブ園で雨宿りすることができました。なんてタイミングよくこの行程がすすんだのか、23名の方々の強運に感謝です。

雨が上がると、新神戸駅まで駆け下り ZAKOBAめざしてGOーー。

ZAKOBAでは、山登りの時とは違う一面が皆さんおありで、逆に名前を覚えることができました。お別れの時は、「また一緒に行きましょう〜」笑顔でお疲れ様でした。と、楽しいクリスマス山行となりました。お世話して下さった皆様方のおかげです。ありがとうございました。



## ■新春トレーニング山行 高御位山～桶居山

● 山行日：1月3日(火)

参加者27名

	1班	2班	3班	4班
L	砂川(延)	垣内	和田	山本(正一)
SL	藤本	佐々木	澤田(律)	尾内
	狩集	大谷	上田	岡本
	木下	橋本(健)	河崎	木畑
	小山	村上	須増	荘所
	田中(重)	矢根	田中(美)	田中(由)
	谷口			舛賀
	中井			



- 行動記録：長尾駐車場9:15発～高御位山(10:00着)10:10発～桶居山分岐(10:55着)～桶居山(1班) (12:55着)13:00発～別所中池(14:25着)14:35発～高御位山縦走路(15:20着)～鹿島神社(15:45着)15:50発～長尾駐車場(16:15着)
- 行動記録：新池駐車場9:15発～高御位山頂上(10:00着)10:15発～桶居山分岐(10:55通過)(3班)～桶居山(12:30着昼食)12:55発～240mピーク(13:35通過)～別所奥山(14:20着)14:30発～百間岩前鉄塔(15:25着休憩)15:30発～新池駐車場(16:15着)

### ◆◆高御位山遊会新春トレ感想文

藤本

高御位山遊会の恒例行事となった正月3日の新春トレに参加した。いい天気恵まれて、今年の山登りも幸先のよいスタートをきった。集合した時は少し寒かったが、歩き出すと暑くもなく、寒くもなく、いつまでも歩いていたいくらい快適な気温だ。

最近高御位山に登る人が増えたみたいだが、特に正月ともなるといつもよりたくさん



人出だ。頂上は普段登らないような家族連れでにぎわっていた。

高御位山の頂上を後にして桶居山へと分岐に行く。分岐から桶居山に向かう道に出た途端ほとんど人を見かけなくなる。静かな山道をたどって遥か彼方に見えている桶居山へ向かう。いくつの山や谷を越えたらうか、遥か遠くに見えていた桶居山が近くに見えてくる。

もうすぐだ。風のない陽だまりで桶居山を見ながら昼食をとる。他の班は足速く歩いてすでに桶居山へ向かっているようだ。あれ？誰かさんのリュックが何個か置きっぱなしにしてある。どうせここへ戻ってくるので空身で桶居山へ行ったな。



桶居山から下る途中で黒い雲が近づいたと思ったら雨が降り出してきた。

朝はあんなにいい天気だったのに。

大した雨ではないがなかなか止まない。

それでも途中の横尾根を下り、別所中池に着くころには雨も上がってやれやれ。この池の標高は約10m。ここから高御位山の縦走路まで200m程を登り返す。この登り返しは何度も登っては下り、登っては下りの連続で、縦走路はまだか、縦走路はまだか、と思いつつながらその都度小さな失望を感じながら登るので非常に疲れるのだ。

それでも縦走路に出るといつも歩き馴れた山道なのでゴールが近いのがわかる。百間岩を下って鹿島神社の境内に出ると初詣の人でごった返していた。正月の間だけ有料となる駐車場に向かう車の行列が国道2号まで延々と続いている。その車の列を横目で見ながら長尾の駐車場までのんびり歩く。時間はすでに午後4時近くになっている。歩き出してから約7時間。今日もよく歩きました。参加者のみなさま、お疲れさまでした。

## ◆◆小さな山嶺の曲線

## 河崎

徹夜あけの気だるいカラダを揺すりながら、砂礫と岩稜の荒れた登山道を踏み込んでゆく。高御位山遊会に所属して初めての正月山行。他の予定を外してもこれには参加したいと思っていた。

4班およそ各員6～7名ずつにわかれ隊列を組み、そのなかの1分子として、3班リーダーの和田さんを先頭にゆったりと歩調を合わせ、みな足枷にならぬようついていく。

日頃からの運動不足に加え体力低下が著しい私にとって、非常にありがたい緩慢な速度である。が、全身が鉛のように重く、ところどころで息が上がる。ほんの数時間前までシゴトをしていたからだろう。

時折、登山道傍で見受けられる心ない者による植物への蹂躪の痕跡を見て、草臥れた自分に重ねそこに横たわりたい衝動に駆られる。

直ぐまえを歩く須増さんはよどみない足の運びで躊躇いがない。少し真似してみる。何となくいい。同じ場所に足を運びさえすればいいから楽だ。

疲弊しながらも何とか高御位山の山頂に達するころには心肺が順応し少しカラダも軽くなった。景観を楽しみ甘いものを口にする余裕さえ出てきた。

参拝を済ませ、人の多い山頂をあとにすると縦走路を西へと向かう。瀬戸内の島々は霞んでみえた。空は曇天。予報は晴れのはずだが北方の灰色の雲が重く垂れ込めている。

桶居山分岐を北へ折れ、いくつかの急な下りを過ぎし或いは登りながら、しばらくの間、眼下に窺える太陽光発電所がかつては射撃場であったことに想いを馳せる。あの乾いた射撃音が、この荒涼たる桶居山へとむかう白き砂礫の縦走路を、よりいっそう荒涼とさせるそうした寂寥感<sup>せきりょうかん</sup>が好きでよく通ったものだ。

しばらくすると山間の稜線から目指すピークが顔をのぞかせる。その特徴ある偏屈<sup>へんくつ</sup>そうな風貌<sup>ふうぼう</sup>は、対局に位置する別所側のかんざし岩の岩頭から眺めるとやや違って見える。どことなくたおやかな雰囲気<sup>ふんいき</sup>をただよわせ、女性的なやさしさを醸<sup>かも</sup>しだしているように私は思う。その柔和なやさしさに惹かれ、いつもそのルートを選択するのである。

やがて、桶居山の基部に到達する。天上<sup>てんじょう</sup>に屹立<sup>きつりつ</sup>するいただきを見上げ、息をととのえ遅れをとらぬよう早々に岩稜<sup>いわら</sup>に取付く。やはり前をゆく軽快かつ巧妙な運びをみせる須増さんの登りをコピーする。真似てばかりではトレーニングにはならないが依存は楽だ。あつという間に山巔<sup>さんねん</sup>に立ち三角点<sup>さんかくてん</sup>に触れる。疲労感<sup>ひろうかん</sup>は雲散霧消<sup>うんさんむしょう</sup>。すっかり回復し昼食を済ませると、まるで嘘のように復活した。いつもならば通過点に過ぎぬこの山も、たまにはゆっくり<sup>たたず</sup>佇<sup>た</sup>んでみるのもいい。四方<sup>よっぺ</sup>を俯瞰<sup>ふかん</sup>すると、渺茫<sup>びようぼう</sup>とした風景に映える登山路の蛇行線が美しい。眺望<sup>てうぼう</sup>もけっして悪くない。長く眺めていたい暗雲<sup>あんうん</sup>が立ち込めカラダも冷えて



きた。するとリーダーの和田さんが出発を促す。

次に別所中池への下山ルート、そして209ピークを越えて百間岩手前へ至るまでのコースは実は初体験である。途中、にわか雨に濡れた。

傾斜のある岩稜はよく滑った。ふと雨水にあらわれた百間岩が脳裏をよぎる。しかし、中池へ下る頃には雨も止み空は明るくなった。わずかに梢を濡らした程度だ。

中池から百間岩へと繋がる登り返しは意外と軽い。名の知れぬ路傍の花が、寒さに耐え明るく咲いているが、ところどころ摘まれた形跡が窺える。

そこで花を咲かせるがゆえの宿命なのだろうか。

植生の合間を縫って、やがて高御位山へと繋がる縦走路に合流する。もうこの山行もあと僅か。ほんの少し、まだ、山の稜線に佇んでいたいという気持ちが増幅する。未練がましく高御位山を振り返るが、いっしょに登りかえそうという人は誰もいない。諦めてみなのを追った。百間岩の手前までやってくると、冷たく心地いい風が頬を打つ。

空と海との間隙に、薄ぼんやりと浮かぶ島々を眺めながら、またひとつこの山の良さを知ったような気がした。そして、えも言われぬほど、この小さく美しい山嶺の曲線を、あらためて辿りたいと感じた。

最後にリーダー和田さんはじめご一緒にさせて頂いた皆さんに感謝です。ありがとうございました。



## ■矢筈山363m&三角点山456.9m 北播磨の山を歩く

- 山 行 日：1月7日(土)
- 参 加 者：La尾内 SLa 藤本 乙坂 木下 田中(重) 田中(由) 西脇 本田 森下  
Lb 瀧原 SLb 赤木 内海 坂田 田羅間(勤) 土屋 舛賀 矢根 山本(清)

- 行 動 記 録：矢筈駐車場 9:10 発～登山口(9:10 着)～登山ロード分岐(9:20 着)～矢筈山山頂(9:50 着)10:00 発～矢筈山三角点(10:05 着)10:10 発～登山ロード分岐(11:15 着)～矢筈駐車場(11:30 着)12:10 発～三角点山駐車場(12:25 着)～稲荷神社(12:30 着)12:55 発～3 2 3 ピーク(13:25 着)13:30 発～三角点山山頂(13:55 着)14:10 発～駐車場(14:50 着)

### ◆◆素晴らしかった「矢筈山・三角点山」の山行

本田

1月7日、空は蒼く、雲1つない絶好の登山日和であった。

ストレッチを終え、リーダーの話を聞いてから2班編成で駐車場を出発した。ぴりっと冷たい空気を鼻先と頬に感じながら杉木立の中のゆるやかなふれあいロードを歩き始めた。

10分足らずで分岐点に到着し、右折して「登山ロード」を登った。急登だが歩幅に合う段々が作られていて登り易く感じた。

小宮の前で小休憩をとり衣服の調整をして再び登り始めた。“頂上まで500m”の標識の後は50m毎の“あと〇〇mがんばれ”の立札に元気をもらいながら山頂を目指した。

矢筈山の登山道は見晴らしの良い場所には長椅子が置かれるなどして登る人に優しいと思った。登り始めて40分ばかりで矢筈山神社に到着。神社辺りからのロケーションは抜群である。南は六甲山系から雄岡山・雌岡山、東は白髪山や白山などの山々が連なる素晴らしい眺めである。神社から2、3分の所の矢筈山三角点に行ってから下山を開始。下山はドングリ林の中のくねくねと続く、つづら折りの小道の「どんぐりロード」を下った。チチ、チチと鳴く小鳥の声も聞いたし、真っ赤なやぶ椿の花にも出会った。



三角点山へは車で移動して稲荷神社で昼食をとり、神社横の登山口から「愛宕ルート」を登り始めた。急登で周りの木々を掴みながらひたすら登ること30分、行者像前で一息。

そこから30分間、小さな上り下りを数回繰り返してやっと三角点山の頂上に立った。三角点山からの眺めも素晴らしかった。山頂を出発し「南福谷ルート」をひたすら下った。

下山後、官兵衛の湯でゆったり、ほっこり。疲れが取れて安らぎを感じるひとときだった。

本当に素敵な山行だった。リーダーはじめ、ご一緒させていただいた皆様、本当にあり

がとうございました。